



発行
新屋高等学校
出版委員会
代表 古川 美羽
秋田市豊岩石田坂
字鎌塚 77 の 3
印刷 (株)塚田美術印刷



男子団体 5年ぶり優勝

弓道部

凛とした姿勢で表彰を受ける男子弓道部員



この一矢に集中



バドミントン
ダブルスで全国へ

渡々木

六月六日から県北会場を中心に行われた全県総体で、弓道部男子団体とバドミントンダブルスが全国大会出場を決めた。全県総体を振り返りつつ、全国大会への抱負を語ってもらった。

弓道部
安定した
高的中を狙う

弓道部主将の渡々木真真(2D)は、「全県総体では平均的な中の中は出たが、高的中が出なかったのが、全国大会ではじっくり狙いを狙い、高的中を安定して出せる試合をしたい」と反省と課題を述べた。全国大会出場が決まった時は「三年生のいる他校に二年生だけで勝てたと思いが、全国へ行ける実感はあまり無かった」とそうだが、「全国優勝し、小玉先生と畑コーチに優勝旗をプレゼントしたい」と言う。東京武道館で八月七日から競技が開始される。

バド部
レシーブ強化を
課題に

バドミントン部主将の佐々木許紀恵さん(3A)は、「全国大会出場を懸けた試合では二人とも集中力が切れ



佐々木許紀恵(奥)と渡部歩実の息の合ったプレー

ず、粘りあるプレーが出来た。勝利の瞬間は泣きながら二人で抱き合った。と、歩実さん(2A)との戦跡を振り返る。「二人で今よりレベルアップし、初戦突破を目指す」と語った。バドミントン競技のダブルスは、八月四日から千葉市(五会場)で行われる。

ももさだ
講演会

新高設立時の
苦勞を偲ぶ

五月一日、本校後援顧問の高橋昌一先生をお迎えし、「ももさだ講演会」が実施された。

「新屋高校の生い立ちと未来に向けて」が演題。約一時間にわたってお話をうかがった。

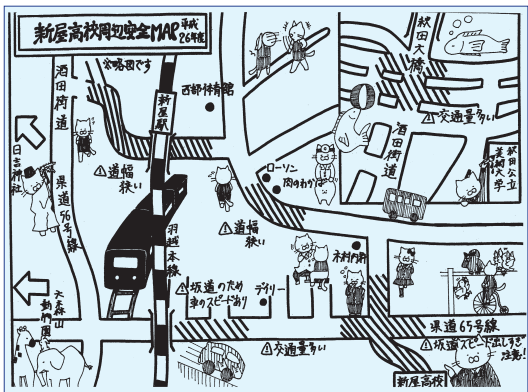


本校生をじつと見つめ、切々と語られる高橋先生

「自分の祖父がかつて、新屋地区への農業高校誘致運動に敗れた際の悔しさがある」と述べられた高橋先生。昭和五十二年頃から市内の中学校卒業生が増加すると予想され、当時議員だった先生が議会で「新屋地区に高校を」と意見を答申。「県知事は予算都合上、向浜空港跡地での設立を検討していたが、風や砂の影響が心配だった」とおっしゃる先生は、土地の買収を手掛けた。本校は昭和五十八年九月十七日に現在の場所に創設されることになった。「初めての入学は南高の校舎を借りて実施され、合格者は三六九名だった。

4月の「スクールマナー教室」に合わせ、「新屋高校周辺安全MAP」が制作された。皆もこのMAPを活用し、事故の危険から身を守ってほしい。

危険箇所を認識しよう 手描きの「猫」に親近感



「新屋高校周辺安全MAP」が初めて制作された。A.P.が初めて制作された。年度初めに全校生徒に配付された。生徒指導部の川村寿紀先生は、「近頃、自転車の事故が多発している危険箇所を予め知って、おくことにより、事故を回避する目的で制作した。特に気がつくところを見つけた。所は学校と新屋駅周辺。手描きで、周囲から好評を得ている」とおっしゃる。

制作は美術部の伊藤かな子さん(3A)。約十時間を要した。平野則夫先生は「このMAPは、猫を擬人化したことで、身近な動物のイラストが、周囲の危険箇所を分かりやすく伝えるよう工夫を凝らしている」と評価をなしている。MAPには、「坂道スリッド出しすぎ注意!」「交通量多い」などの親切なコメントもあり、分かりやすい構成になっている。

日本には、「行事食」というものがある。四季折々の旬のもの、伝統行事などに由来するものなど、数々ある。おせち料理や年越しそばなど、今も季節の風物詩の一つとなっている。▼今月の行事食を挙げてみると、夕の行事食を挙げると、七草粥や白玉団子、土用の丑の日のうなぎが代表的なものである。▼土旺用事(どおうようじ)の略で、立秋前の十八日間を指す。各季節の終わりに設けられ、夏の土用は暑中見舞いを出す時期でもある。▼「う」のつくものを食べると病気になる、土用の丑の日。「うどん」「瓜」「梅干し」もそうだが、最も定番となっているのは「うなぎ」である。▼江戸時代の万能学者・発明家の平賀源内は、知り合いのうなぎ屋が、「夏はうなぎが売れない」と困っていたので、「土用の丑の日、うなぎの日。食すれば夏負けすることなし。」と店の前に張り紙をした。これが大当たり。七月の行事食に「うなぎ」で、本間にうなぎを食べる。うなぎにはビタミンAが豊富に含まれている。その他、タンパク質、脂質、ビタミンB群、D、E、カルシウムや鉄もある。ヌルヌルした皮の正体はムコ多糖類で、胃腸の粘膜を保護する働きを持つ。栄養満点で滋養強壮に役立つ食べ物だと言える。▼ビタミンが欠乏し、体の様々な不調を訴える夏バテ。汗と共にミネラル成分まで排出されがちだ。おいしいうなぎ食は、食意のあるうなぎ食。行事食とは、旬の栄養を摂取する価値ある習慣なのであ

江
陵

今年度から佐々木律成校長先生が着任された。専門は世界史。「創立30周年の今年、生徒が進路や部活動等でどれくらい成果を出したのか楽しみ」とおっしゃる先生にインタビューした。



時に熱く、時にこやかに語る校長先生

佐々木律成校長

校長インタビュー

世界史の先生が出す難問を解くことが快感な、マニアックな生徒だった。教師を志すきっかけの一つとなった。高校生活で心に残っていることは何ですか。駅から学校までの約4km

と。また、自分も小・中・高と恩師に恵まれたこと。高校二年生で亡くなった弟と二世帯生活で亡くなったと生きたことなど複雑である。考えたことなど複数ある。教師になつて良かったと思うことは何ですか。生徒の成長ぶりや、自分を目標にして教師になった卒業生の活躍が見られること。くじけそうな時も諦めずに真正面から向き合ったことが生徒に伝わった。時、尊敬する人は誰ですか。約六千人のユダヤ人の命をナチスの迫害から救った杉原千畝。自分の地位や家族の生活に執着せずに人命救助した功績は大きく、世界に誇れる日本人。

好きな言葉を紹介してください。『難題(かんなん) 汝(な)を玉にす』という言葉。言葉に言い尽くせない苦労があってもぶつかっていくことで初めて一人前の人間となる。休日(きゅうじつ)はどのように過ごしていますか。生徒の校内外の活動や地域行事に参加。音楽鑑賞や映画鑑賞、釣りも。生徒(せいせい)はメッセ(メッセージ)を。新聞を読む、乱読でも良いから読書。勉強して本物に出会うこと。安易に楽な生き方を選ばず、辛くても苦勞を買って出る気迫、たくましさを持つことが大切。その姿勢が社会貢献へと通じる。

